

アナリストレポート

緩やかに持ち直している

しがぎん
経済文化センター
(産業・市場調査部)

県内景気天気図

現在の景気



生産活動



個人消費



民間設備投資



住宅投資



公共投資



雇用情勢



3か月後の景気



凡例

- 晴れ 晴れ一部曇り
- 曇り 曇り一部雨
- 雨

前月比

- 上昇・好転 横ばい
- 下降・悪化

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、前月に比べ汎用・業務用機械や窯業・土石製品などで上昇したものの、生産用機械や食料品などで低下したため、全体では2か月連続の低下となった。需要面では、百貨店・スーパー販売額は、衣料品と身の回り品がともに4か月ぶりの低下となり、家電機器と家庭用品で低下が続いているものの、ウエイトの高い飲料品が8か月連続で増加しているため、全店ベースでは7か月連続で増加している。また、大型専門店などの他の小売業態の販売額は、新規出店が続くドラッグストアが26か月連続かつ大幅に増加しているのに加え、1店舗あたりの売上高も増加が続いている。家電大型専門店は前年からほぼ横ばい、ホームセンターは4か月ぶりに減少、コンビニエンスストアは20か月連続で増加している。これらの結果、小売業6業態計の売上高は22か月連続で前年を上回っている。ただし、物価の上昇分を除くと4か月ぶりのマイナスとなっており、今後の動向には注意が必要である。また、乗用車の新車登録台数は11か月連続で大幅増加し、軽乗用車の販売台数も4か月連続の増加となったため、3車種合計では12か月連続かつ大幅増加している。

投資需要では、新設住宅着工戸数の減少が続いているものの、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積が湖南省で運輸業の大型着工があったことから2か月連続の大幅増加となり、公共工事の請負金額も2か月ぶりの大幅増加となった。また、トラック新車登録台数は14か月連続で増加している。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は2か月ぶりの大幅低下となり、有効求人倍率と実態に近い就業地別の有効求人倍率はともに僅かながら低下が続いている。また、常用雇用指数は13か月連続で上昇した一方、製造業の所定外労働時間指数は13か月連続で低下している。

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、持ち直している。個人消費は、持ち直している。観光は、着実に持ち直している。設備投資は、増加している。住宅投資は、緩やかに減少している。公共投資は、高水準で推移している。こうした中、生産は、横ばい圏内で

査」(10-12月期)によると、自社の業況判断DIは3四半期連続で回復している。製造業は原材料価格の高騰と中国需要減少による在庫調整などによる影響で回復の動きが鈍いものの、非製造業は社会経済活動の正常化が進み約4年ぶりのプラス水準となった。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は、高水準で推移していた生産用機械が大幅減少に転じ、ウエイトの高い化学が大幅減少となった前月からほぼ横ばいとなるなど、このところの持ち直しの動きに足踏みがみられる。需要面では、小売業6業態計売上高が物価上昇分を除くとマイナスに転じたものの、前年比で増加が続いている。投資需要では、住宅投資で減少が続いているものの、民間設備投資が運輸業の大型着工があったことから大幅増加となり、公共投資も大幅増加となった。また、トラック登録台数でも増加が続いている。したがって、県内景気の状態は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、世界的なIT関連財需要に底打ちの兆しが見えるものの、大手自動車メーカーの県内工場が昨年末から操業停止となっている影響などで、弱含みの推移になるとみられる。一方、個人消費については、緩やかな回復の動きが続くとみられる。ただし、物流・運送や建設、医療などの業界で時間外労働の上限規制が適応される「2024年問題」の影響などから、当面は物価上昇圧力の強い状態が続くと予想される。また、投資需要については、経済活動の回復に伴い省力化・省人化に向けたデジタル化投資など、前向きな投資の増加が期待される。

したがって、今後の県内景気については、内需を中心に緩やかな持ち直しの動きが続くとみられるが、人手不足による供給制約、海外景気の減速、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格動向など、下振れリスクには引き続き注意する必要がある。

推移している。また、雇用・所得環境は、緩やかに改善している。
【日本銀行京都支店:「管内金融経済概況」(2023年12月26日発表)より】

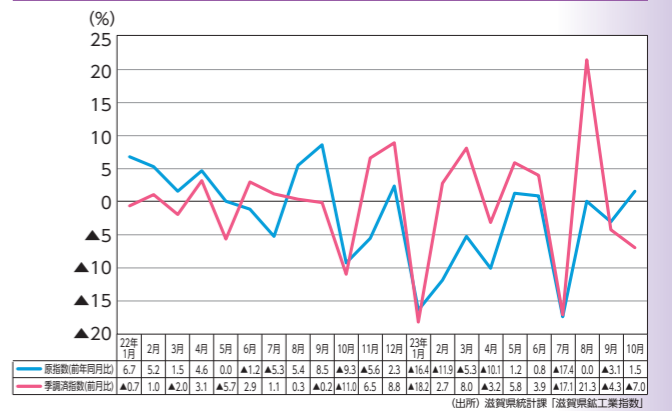
「鉱工業生産指数」の前月比は

2か月連続で低下

- ・鉱工業生産指数(2015年=100)の「原指数」(2023年10月)は99.7、前年同月比+1.5%となり、4か月ぶりに上昇した。一方、「季節調整済指数」(以下、「季調済指数」)は97.7、前月比▲7.0%で、2か月連続で低下した。季調済指数の3か月移動平均値(23年9月)は104.1、前月比+2.4%と、8月単月のプラス幅が大きかったため2か月ぶりの上昇となった。
- ・業種別季調済指数の水準が100の基準を上回ったのは、「生産用機械」(155.0)や「化学」(117.3)、「汎用・業務用機械」(106.5)などで、一方、下回ったのは、「電子部品・デバイス」(47.2)や「金属製品」(68.0)、「窯業・土石製品」(75.3)など。
- ・前月に比べ高ウエイトで上昇した業種は、「汎用・業務用機械」(前月比+9.3%、運搬装置)や「窯業・土石製品」(同+7.6%)などで、一

方、低下したのは、「生産用機械」(同▲31.7%、半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置)や「食料品」(同▲9.0%)など。

鉱工業生産指数の推移(滋賀県、2015年=100)



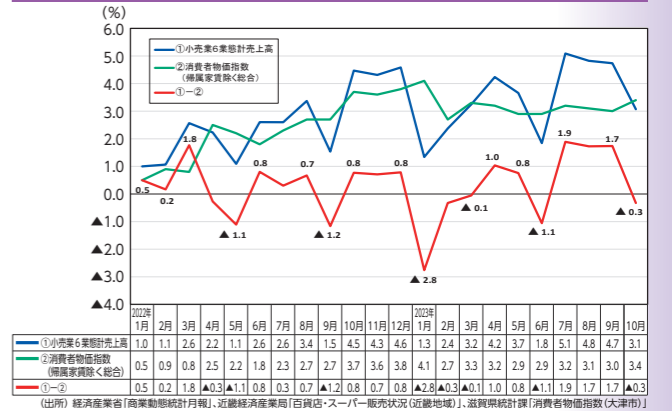
「小売業6業態計売上高」は22か月連続の増加も、

今後の動向に注意

- ・「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2020年=100)」(23年11月)は105.0、前年同月比+2.4%、前月比±0.0%となった。前年同月比は25か月連続で上昇している。このような中でエネルギーは前年同月比で▲12.5%と10か月連続かつ大幅低下し、前月比も2か月ぶりの低下となった(▲1.0%)。また、乳卵類(前年同月比+18.1%)、家事用消耗品(同+15.2%)などで大幅な上昇となった。
- ・「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象101店舗)」(10月)は、21,626百万円、同+0.9%と7か月連続で増加し、コロナ前の19年同月と比べても増加している(+6.5%)。品目別では、「衣料品」(前年同月比▲9.9%)と「身の回り品」(同▲5.7%)がともに4か月ぶりの低下となったのははじめ、「家電機器」(同▲10.5%)が4か月連続かつ大幅低下し、「家庭用品」(同▲5.5%)も5か月連続で低下している。一方、ウエイトの高い「食料品」(同+2.3%)は8か月連続で増加している。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」(同+0.5%)は8か月連続の増加となった。
- ・大型専門店では、新規出店が続く「ドラッグストア」(全店ベース=店舗調整前、10月/257店舗、前年同月比+9店舗)が9,107百万円、同+15.4%と26か月連続かつ大幅増加しているのに加え、1店舗あたりの売上高(10月)も前年同月比+11.3%と、9か月連続かつ大幅増加している。また、「家電大型専門店」(同/42店舗)が3,259百万円、同▲0.1%と、2か月ぶりに僅かながら減少し、「ホームセンター」(同/68店舗)は3,207百万円、同▲4.4%で、4か月ぶりに減少した。「コンビニエンスストア」(同/538店舗)は10,129百万円、同+1.5%となり、20か月連続の増加となった。

- ・これらの結果、「小売業6業態計売上高」(10月)は47,328百万円、同+3.1%となり22か月連続で増加したものの、消費者物価上昇分(帰属家賃を除く総合、10月、前年同月比+3.4%)を除くと、4か月ぶりに僅かながらマイナス(同▲0.3%)となっており、今後の動向に注意する必要がある。
- ・「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」(11月)については、「小型乗用車(5、7ナンバー車)」が2か月ぶりの増加となり(944台、前年同月比+0.4%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」も15か月連続かつ大幅増加したため(2,014台、同+31.2%)、2車種合計では11か月連続で大幅増加している(2,958台、同+19.5%)。さらに、「軽乗用車」の販売台数も4か月連続の増加となり(1,846台、同+6.2%)、これらの結果、3車種の合計は12か月連続かつ大幅な増加となった(4,804台、同+14.0%)。

物価上昇分を考慮した小売業6業態計売上高(前年同月比)



「民間非居住用建築物着工床面積」は

2か月連続で大幅増加

- ・「民間非居住用建築物着工床面積」(23年11月)は212,221㎡、前年同月比+578.9%となり、2か月連続で大幅増加している。
- ・用途別にみると、「鉱工業用」(5,285㎡、同▲63.1%)は2か月ぶりに大幅減少、「商業用」(5,325㎡、同+163.9%)は2か月連続で大幅増加。「サービス業用」(194,941㎡、同+1980.9%)も2か月連続かつ大幅増加となったが、これは湖南省の運輸業で大型着工(182,503㎡)があったため。これらの結果、3業用計(205,551㎡、同+699.7%)は2か月連続の大幅増加となっている。
- ・トラック新車登録台数(11月)は、「普通トラック(1ナンバー車)」(127台、前年同月比+30.9%)が9か月連続かつ大幅増加、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」(198台、同▲5.3%)は2か月ぶりの減少となった。これらの結果、2車種合計(325台、同+6.2%)では

14か月連続の増加となった。

民間非居住用建築物着工床面積の推移

